

令和元年6月18日現在

機関番号：32678

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02421

研究課題名(和文) 中勘助の直筆資料のデジタル化基盤整備に伴う創作方法の解明に関する研究

研究課題名(英文) A Study on Naka Kansuke's Methods of Literary Creation.

研究代表者

大森 英実(木内英実)(OMORI, Hidemi)

東京都市大学・人間科学部・准教授

研究者番号：70331501

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)： 期間内において静岡市中勘助文学記念館収蔵庫建設に伴い研究対象とした中勘助関係資料の閲覧が停止した。そのため研究は渡辺外喜三郎氏による1986年発表以降中断していた「中勘助参考文献目録」作成並びに、「完成版静岡市所蔵中勘助旧蔵書目録」作成・一部直筆資料のデジタル化に限定して取り組むこととなった。この結果、学会研究発表4件、著書・論文発表5件の成果を残すことができた。特筆すべきは「中勘助参考文献目録(木内英実・鈴木一正編)」を拙著『神仏に抱かれた作家 中勘助』に収録できたこと、「完成版静岡市所蔵中勘助旧蔵書目録」(2017年度に寄贈・期分、2019年度に期分を加筆)を完成させたことである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果としての「中勘助参考文献目録」について、1986年度以降公刊された岩波書店版『中勘助全集』を始め、作品の背景を示した同全集月報記事などの文献を中心に、静岡市所蔵資料の中に発見した中勘助文学評としては最古のものに分類される1924年9月29日『東京日日新聞』掲載、井上生「中勘助氏の作品(一) 自然の頌歌として」等を収録できたことは、今後、中勘助文学若手研究を支援する上で大変有意義であろう。また「完成版静岡市所蔵中勘助旧蔵書目録」にNDCによる分類記号を付した結果、研究成果報告書内「静岡市所蔵中勘助旧蔵書目録」について」において記した通り、待望の旧蔵書の分類内訳が明らかとなった。

研究成果の概要(英文)： In 2016 and 2017, Reading Naka Kansuke's autograph materials has been prohibited at The Kansuke Naka Literature Memorial in Shizuoka city because of construction of closet for literary materials. So I started to edit the document catalog about Naka Kansuke's works which no one edited after Mr. Watanabe Gekisaburo's edition which was published in 1986. Also I started to edit the document catalog about Naka Kansuke's autograph materials which Shizuoka city maintains. In 2018, I scanned Naka Kansuke's autograph materials at The Kansuke Naka Literature Memorial. As a result I wrote 3 Journal articles and published 2 books, presented 4 researchs on Naka Kansuke's works.

Especially I'm satisfied with publishing the document catalog about Naka Kansuke's works and the document catalog about Naka Kansuke's autograph materials which Shizuoka city maintains divided into two steps.

研究分野：日本近代文学

キーワード：中勘助 直筆資料 創作方法 直筆原稿 旧蔵書 静岡市所蔵 資料目録

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

中勘助の文学者としての位置づけとして、夏目漱石が『東京朝日新聞』に推薦し実質的文壇デビュー作となった『銀の匙』に対する漱石評において明らかなように「独創性」に優れた普遍的価値をもつ作家というのが通説である。中勘助の前半生における『銀の匙』『提婆達多』『犬』『菩提樹の蔭』といった小説作品テーマに関連して病兄との不和という伝記が議論の俎上に載せられることが多く、漱石山脈に位置し家庭的事情に苦悩した作家像がイメージとして出来上がっている。

また近年では灘校の元国語教師故橋本武氏による『銀の匙』を中学校3年間で読み通すという奇跡の授業がマスコミに取り上げられ、Hiro Sato 訳英訳本 *The Silver Spoon, Stone Bridge Press, 2015* によって英米でもその作品が注目を集める作家となった。『銀の匙』が世に広まった一方で、実証的な作品研究及び作家研究書籍の出版点数は10点にも満たず、その研究は進展していない。

中勘助遺族が中勘助病気療養及び疎開の地であった静岡市に1996年、中勘助旧蔵書及び創作ノート等の直筆資料を寄贈したことを発端とし、2010年に中勘助と交流があった静岡市の実業家が旧蔵の中勘助直筆資料を寄贈するなど、静岡市所蔵中勘助関係資料の充実が著しい。約4500点ともいえる資料は静岡市作成管理台帳のデータは存在するものの、誤記、項目の不統一が甚だしく、所謂文学館の資料として公開できる状況にはない。そこで、資料目録の整備と併せて、直筆資料のデジタル化を進め中勘助の実像に迫る研究の可能性を開くことを本研究の学術的背景とする。

本研究に取り組むに当たり、木内英実は2012～2015年度、静岡市所蔵中勘助関係資料の整理及び調査に静岡市からの受託研究費によって取り組んだ。

2. 研究の目的

(1) 静岡市所蔵中勘助関係資料中、特に中勘助蔵書における作者書き入れ箇所及び中勘助作品の創作メモ、創作ノート、草稿、校正原稿のデジタル化を行った上で、両者の内容を照合させ中勘助による文学作品創作方法を明らかにすることを目的とする。これにより中勘助の読書歴とその思想が解明されるだけでなく、着想 資料収集 草稿 校正に至る作品が活字化されるまでの創作の経緯が詳らかとなる。

(2) 実務作業の中には、中勘助遺族から静岡市への資料寄贈時期(3期)に隔たりがあったために現在3形式に分かれている静岡市所蔵中勘助関係資料目録を整備する取り組みも含まれる。これにより静岡市所蔵中勘助関係資料目録の統一化が図られ目録利用の価値が高まることが期待される。

3. 研究の方法

(1) 中勘助蔵書における作者書き入れ箇所及び中勘助作品の創作メモ、創作ノート、草稿、校正原稿のデジタル化について、静岡市中勘助文学記念館に月1,2回訪問し現地設置PC及びスキャナを用いて取り組むことを予定していたが、2016年度中勘助文学記念館収蔵庫建設に伴う2016～2017年の資料の閲覧停止という静岡市側の理由により、2017・2018年度に延べ15日間しか滞るできなかった。また、所轄部署である静岡市文化振興課の状況として、申請書等、閲覧のための事務手続き面は整ったものの、1名の資料管理担当者が事前申請した閲覧資料を所蔵庫から搬出し、所蔵庫前室で研究者が閲覧スキャンするという方法が用いられており、月1回の資料閲覧が対応可能な上限回数であったという現状が明らかとなった。

(2) 静岡市所蔵中勘助関係資料目録整備について、静岡市より提供された同市作成中勘助関連資料管理データをNDL-OPAC 書誌情報照合並びに現物確認を行いつつ修正し、分類記号を付すなどの作業を東京都市大学等々力キャンパス木内研究室にて研究協力者2名(鈴木一正氏及び岡崎史氏)と共に取り組んだ。

鈴木氏が所属していた国文学研究資料館作成の目録や近年上梓された作家の資料目録等をいくつか比較する中で、目録に取り上げる項目や標記の方法を検討し、3種あった資料管理データを徐々に話し合いながら統一していった。

4. 研究成果

下記図書 (1) 木内英実『科研費基盤研究(C)(一般)16K02421「中勘助の直筆資料のデジタル化基盤整備に伴う創作方法の解明に関する研究」成果報告書「静岡市所蔵中勘助旧蔵書目録」』(東京都市大学等々力キャンパス木内研究室、2019.3) 冒頭「科研費基盤研究(C)(一般)16K02421『中勘助の直筆資料のデジタル化基盤整備に伴う創作方法の解明に関する研究』成果報告書について」に記したように、上記3(1)にて説明した静岡市側の理由により、研究の変更及び縮小を余儀なくされた。「中勘助の資料のデジタル化」については主に直筆原稿に絞った。

その中で、世田谷文学館友の会講演「中勘助の『銀の匙』に描かれた童心の背景」(2017.2)及び下記学会発表「静岡市所蔵中勘助関係資料調査における諸点」日本女子大学大学院の会(2017.10)において、中勘助書き入れのある旧蔵書(和綴じ本)『百人一首』(出版時期不明)

の内容調査結果を示したところ、日本女子大学の近世文学研究者より同書刷りの状況をもとに出版時期を明治期に確定する貴重情報が与えられるという研究の進展があった。

また資料閲覧停止時期(2016・2017年)に、静岡市所蔵中勘助関係資料の内、複写を取っていただいた近年出版された韓国語版『銀の匙』日本語訳を韓国語を母国語とする日本文学研究者池田美愛氏に依頼した。その結果、韓国で『銀の匙』が出版された経緯として、例年東大入学者を多数輩出する進学校灘校の元国語教師故橋本武氏による『『銀の匙』の授業』の情報が韓国でもマスコミに取り上げられたということが分かった。また、同作品に日本特有の「恥の文化」が描出されていることが訳者の翻訳理由であったことなど興味深い事実が明らかとなった。この結果を下記学会発表 木内英実「中勘助の『銀の匙』の諸点」国際啄木学会東京支部会(2016.10)において公表し、文学研究者より新たな知見を得たとの反響があった。

その他、下記雑誌論文 木内英実「『月の兎』伝承における国定教科書及び検定国語教科書の影響」『総合社会科学研究』31号(2019.3)には、中勘助の『月の兎』受容を示す詩「兎のお話」(詩集『飛鳥』収録)を取り上げ、インド学資料を積極的に利用した中勘助の創作方法を解説した。

2018年5月には平塚ゆかりの作家 中勘助を知る会が中心となって建立した平塚市中勘助文学碑の碑文に2017年7月静岡市所蔵中勘助関係資料の内に発見した中勘助直筆資料を静岡市了承のもと提供した。同年11月、同会の協力のもと、研究成果発表シンポジウム「詩人・エッセイストとしての中勘助を知るシンポジウム」を平塚駅前(一財)升水記念市民図書館2階ホールにて開催し、スキャンした静岡市所蔵中勘助関係資料(中勘助が平塚在住期に創作した詩及び随筆作品の直筆資料)の画像をその解説と共に平塚市民70名を始め聴衆に示した。

(2)上記3(1)で説明した静岡市側の理由により、研究の変更及び縮小を余儀なくされ「基盤整備」については「中勘助参考文献目録」及び「中勘助旧蔵書目録」作成に絞った。上記(1)の研究成果の中に井上生「中勘助氏の作品(一)自然の頌歌として」『東京日日新聞』(1924年9月29日)など貴重資料が含まれることが判明したので、第一段階として、研究協力者鈴木氏と共に「中勘助参考文献目録」作成に着手した。その成果は、下記図書 木内英実『神仏に抱かれた作家 中勘助』(三弥井書店、2017.12)「第三部 中勘助参考文献目録」として公表することができた。その目的の背景と反響について下記雑誌論文 木内英実「中勘助参考文献目録について」『文献探索人2017/18』29・30巻(2019.3)において振り返りを行った。

次いで取り組んだ「中勘助旧蔵書目録」であるが、研究協力者鈴木氏・岡崎氏と共に段階的に作成した目録を下記雑誌論文 木内英実「静岡市所蔵中勘助旧蔵書目録について」『日本女子大学大学院の会誌』35号(2018.3)及び下記図書 木内英実『科研費基盤研究(C)(一般)16K02421「中勘助の直筆資料のデジタル化基盤整備に伴う創作方法の解明に関する研究」成果報告書「静岡市所蔵中勘助旧蔵書目録」』(東京都市大学等々力キャンパス木内研究室、2019.3)において公表した。については静岡市中勘助文学記念館・静岡市文化振興課を始め国内外の公立図書館・文学館・大学図書館約80館及び研究者約20名に対し、いまだ公刊されていない静岡市中勘助文学館資料目録に代わるものとして配布した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

木内英実「中勘助参考文献目録について」、『文献探索人2017/18』、査読無、29・30巻(2019)、pp1-2

木内英実「『月の兎』伝承における国定教科書及び検定国語教科書の影響」、『総合社会科学研究』、査読有、第31号(2019)、pp.1-15

木内英実「静岡市所蔵中勘助旧蔵書目録について」、『日本女子大学大学院の会誌』、査読無、第35号(2018)、pp.1-42

〔学会発表〕(計4件)

木内英実「中勘助参考文献目録について」、書誌談話会、(2019)

木内英実「『月の兎』伝承における国定教科書の影響」、総合社会科学会、(2018)

木内英実「静岡市所蔵中勘助関係資料調査における諸点」、日本女子大学大学院の会、(2017)

木内英実「中勘助の『銀の匙』の諸点」、国際啄木学会東京支部会、(2016)

〔図書〕(計2件)

木内英実『科研費基盤研究(C)(一般)16K02421「中勘助の直筆資料のデジタル化基盤整備に伴う創作方法の解明に関する研究」成果報告書「静岡市所蔵中勘助旧蔵書目録」』、東京都市大学等々力キャンパス木内研究室、2019、全72頁

木内英実『神仏に抱かれた作家 中勘助』三弥井書店、2017、全289頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等なし

6. 研究組織

(1)研究分担者 なし

(2)研究協力者

研究協力者氏名：鈴木 一正

ローマ字氏名：(SUZUKI, Kazumasa)

岡崎 史

(OKAZAKI, Fumi)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。